

日本語の無意志自動詞について 可能という観点から

呂雷寧

名古屋大学大学院国際言語文化研究科大学院生

leininglu@yahoo.co.jp

1. はじめに

日本語の無意志自動詞¹は一般に言われるように、可能表現²に使われにくい。その理由の一つは無意志自動詞が可能を含意できることであると考えられる。

本研究は、無意志自動詞がいかなる可能の意味を含意できるのかについて考察したものである。

2. 先行研究とその問題点

無意志自動詞を可能という観点から考察した研究として、青木(1997)、張(1998)が挙げられる。

青木(1997)は自動詞が「(ら)れる」、「ことができる」と共起できるか否かで、それを次の表のように4分類している。

	自動詞の例	(ラ)レル	コトガデキル
タイプ1	上がる、止まる、集まる、動く、変わる		
タイプ2	受かる、助かる、育つ、増える、覚める	×	
タイプ3	決まる、載る、開く、閉まる、広まる	×	×
タイプ4	見える、割れる、折れる、切れる、焼ける	×	×

タイプ1の動詞は意志自動詞で、タイプ2、タイプ3、タイプ4の動詞は有対無意志自動詞である。青木によれば、タイプ3とタイプ4の自動詞は可能を含意する。そして、青木はタイプ3の自動詞は動作主を含意し、他動詞による可能表現に置き換えても意味内容が変わらないとし、タイプ4の自動詞は主体に備った能力、あるいは道具としての役割を表すとしている。青木の説明では、タイプ2の有対無意志自動詞は可能を含意できるか否かは不明である。また、無対無意志自動詞は青木の分類から外されているため、可能を含意できるか否かは不明である。

一方、張(1998)は可能を含意する表現を無標識の可能表現と見なし、結果可能表現と名付けている。張はこういった表現は有対自動詞表現が主流であり、無対無意志自動詞も可能表現になり得るが、有対の場合と同様に、動作主の意図した状態変化が実現できるか否かを表すという条件が必ず満たされなければならないと指摘している。張によれば、下記の(1)と(2)はともに結果可能表現である。

(1) 腕が痛くて手が挙がらない。

(2) 水と油はよく混ざらない。

(1) には動作主の「手を挙げる」という意図的な動作が潜在しているが、(2) は単に「水と油」の性質を表しているように思われ、「混ぜる」という動作主の意図が関与しているとは考えられない。

したがって、可能を含意する無意志自動詞に必ず動作主の意図が潜在しているという先行研究の主張には問題があると思われる。

3. 無意志自動詞の含意できる可能の意味

無意志自動詞は有対か無対かにかかわらず、可能を含意することができる。そして、可能を含意する時、動作主の意図が潜在する場合もあれば、潜在しない場合もある。可能の意味は動作主の意図が潜在するか否かによって異なってくる。

以下では、無意志自動詞が動作主の意図が潜在する場合としない場合、それぞれいかなる可能の意味を含意できるのかについて見てみる。

3.1 動作主の意図が潜在する場合

動作主の意図が潜在する場合、無意志自動詞は動作主の意図的な動作によって引き起こされる物事の変化あるいは結果を表す。それには、動作主が自分の能力または何らかの条件下で、意図した通りに物事の変化あるいは結果を実現できるか否かという可能が含まれると思われる。

(3) いくら頑張っても、この役柄は勤まらない。 (作例)

(4) のどが痛くて食事が通らない。 (作例)

(5) 行きたいが、お金がないので、なかなか決心がつかない。

(『外国人のための基本語用例辞典』)

(3) ~ (5) はいずれも動作主の意図的な動作によって引き起こされる物事の変化や結果を表し、可能を含意していると思われる。つまり、(3) は動作主の「この役柄」に「勤まる」ということを実現する能力がない、(4) は「のどが痛い」という内的条件で、動作主が「食事が通る」という結果を実現できない、(5) は「お金がない」という外的条件で、「行く決心がつく」という結果を実現できない、という可能を含意している。

無対無意志自動詞の場合も同じことが言える。

(6) 彼なら、物事がすべてはかどる。 (作例)

(7) 頭が痛いので論文がうまくいかない。 (作例)

(8) ちゃんと休めば病気が良くなるよ。 (作例)

(6) は動作主「彼」が「物事はかどる」ということを実現する能力を持っている、(7) は動作主が「頭が痛い」という内的条件で、「論文がうまくいく」ということが実現できない、(8) は動作主が「ちゃんと休む」という外的条件で、「病気が良くなる」ということが実現できる、

という可能を含意している。

3.2 動作主の意図が潜在しない場合

動作主の意図が潜在しない場合、無意志自動詞は事物の性質に関する可能、あるいは認識上の可能性の有無を含意することができる。

3.2.1 事物の性質に関する可能を含意する場合

まず、次の例を見てみよう。

(9) 水と油はよく混ざらない。 (= 2)

(10) 飛行機の窓は開かない。 (作例)

「混ざる」、「開く」はともに有対自動詞であるため、しばしば「混ぜる」と「開ける」という動作主の意図的動作によってもたらされる物事の変化を表すと思われるがちである。しかし、(9)においては、動作主が一般化されたことによって、「混ぜる」という意図的動作の存在が薄れてしまい、問題とされていない。そのため、(9)によって表されているのは誰かの「混ぜる」という動作の結果というより、「水と油」の「混ざらない」という恒常的な性質の説明が適切であると思われる。

「水と油」の「混ざらない」という性質は「水と油」に「混ざる」という状態変化が実現不可能ということを示している。したがって、(9)には「混ざる」という変化が成立不可能という「水と油」の性質に関する可能が含まれている。(10)についても同様のことが言えよう。

次の無対無意志自動詞も事物の性質に関する可能を含意している。

(11) ファクトリーゼロの製品は海水に浸かっても錆びない樹脂製ベアリングタイヤを使用しています。 (<http://www.factory-zero.co.jp/sonotaframe2.html>)

(12) 7日間脂肪燃焼スープダイエットは本当に痩せるのか？ (<http://ameblo.jp/petitebeauty/entry-10006407700.html>)

3.2.2 認識上の可能性

無意志自動詞表現はある事柄が成立する可能性があるか否かについての話者の判断を表すことがある。この場合に、認識上の可能性の有無が含まれる。

(13) あの車は何回も事故に遭って、もう直らない。 (作例)

(14) こんなに曇っているので、明日雨が降るよ。 (作例)

(13)は有対自動詞表現であるが、動作主の意図的動作が読み取れないため、動作の結果を表しているとは考えられず、単に事柄の状態が成立可能か否かについて話者の下した判断を表している。つまり、「何回も事故に遭った車」を見て、「直す」という状態になる可能性がないという話者の判断を表している。したがって、(13)には、「あの車」が「直す」可能性がないという意味が含まれていると言える。

無対無意志自動詞表現(14)も話者の判断を表し、話者の認識上の可能性を含意している。

4. おわりに

以上で論じたように、無意志自動詞は有対か無対かにかかわらず、可能を含意することができる。そして、無意志自動詞の含意する可能の意味は動作主の関与の有無に深く関わっている。動作主の意図が関与する場合には、動作主の能力あるいは事柄の実現に影響する条件に関する可能が含まれる。動作主の意図が関与しない場合には、事物の性質に関する可能あるいは認識上の可能性が含まれる。

可能を含意する無意志自動詞表現は、属性叙述構文や蓋然性のモダリティといかなる関係にあるのかを今後の課題とする。

注

- 1) 仁田 (1988) は無意志動詞について次のように定義している。

自己制御性とは、動きの発生・過程・達成を、動きの主体が自分の意志でもって制御できるといった性質である。自己制御性を持った動詞が意志動詞であり、自己制御性を持たない動詞がいわゆる無意志動詞である。(p.35)

本研究では、この定義に従い、自己制御性を持たない自動詞が無意志自動詞であるとする。

- 2) 本研究では可能表現を「可能表現の形式を用いて、有情物・非情物のある事柄または状態の実現が可能か否かを表す表現である」と定義する。

参考文献

- 1) 青木ひろみ (1997) 「自動詞における 可能 の表現形式と意味 コントロールの概念と主体の意志性」『日本語教育』93号 日本語教育学会
- 2) 金子尚一 (1980) 「可能表現の形式と意味 () “力の可能”と“認識の可能”について」『共立女子短期大学紀要(文科)』第23号
- 3) 張威 (1998) 『結果可能表現 日本語・中国語対照研究の立場から』くろしお出版
- 4) 仁田義雄 (1988) 『月刊言語』17 5 大修館書店
- 5) 早津恵美子 (1987) 「対応する他動詞のある自動詞の意味的・統語的特徴」京都大学言語学研究会『言語学研究』7
- 6) 宮島達夫 (1972) 『動詞の意味用法の記述的研究』国立国語研究所 秀英出版
- 7) 森田良行 (1988) 『日本語の類意表現』創拓社
- 8) 呂雷寧 (2005) 『現代日本語における可能表現の研究』名古屋大学大学院修士論文

用例出典

『外国人のための基本語用例辞典』(第二版)(1975) 浅野鶴子他編 大蔵省印刷局

Google (<http://www.google.co.jp/>) (検索期間: 2004/4/1 ~ 2005/12/20)